

シネマツアーリズムへのいざない



発行：一般財団法人 本州四国連絡高速道路協会  
<http://honsikyokai.main.jp/>

せとうち観光再発見！



# もう一度、あの風景と出会いたい。

感動した映画のロケ地をめぐって、

もう一度、スクリーンで 観た風景に出会いたい。

そんな想いをかなえ、ロケ地の人たちとふれ合い、

文化や歴史、さらにはお国自慢のグルメを 楽しむ欲ばりな旅が人気を呼んでいます。

風光明媚な瀬戸内は、昔から名作の舞 台となった島や町が点在しています。

あの頃の自分を思い出しながら、ロケ地をめぐってみてはいかがでしょうか。

## CONTENTS

庵治町 ④ 映画『世界の中心で、愛をさけぶ』のロケ地へ

03

観音寺市 ④ 映画『青春アムデケデケ』のロケ地へ

05

高知市 ④ 映画『君が踊る、夏』のロケ地へ

07

尾道市 ④ 映画『転校生』のロケ地へ

09

コラム① ④ 旅先で映画を楽しもう

11

今治市 ④ 映画『がんばっていきまっしょい』のロケ地へ

13

徳島市 ④ 映画『眉山』のロケ地へ

15

高梁市 ④ 映画『バッテリー』のロケ地へ

17

真鍋島 ④ 映画『瀬戸内少年野球団』のロケ地へ

19

コラム② ④ せとうちローカル麵の旅

21

コラム③ ④ 平成・昭和の思い出の品々

23

ロケ地マップ

25



展示棟は開放感のある吹き抜けの天井に、風格たっぷりの梁や柱、味わい深い土壁の建物。撮影に使われたバイクも展示されています。「庵治ロケ地MAP」もここで入手できます。



落ち着いた色合いの店内には、自然光が差し込み、外観とはまた違った昭和のレトロ感があります。



庵治地方でのみ産出される「庵治石」は世界最高品質で「花崗岩のダイヤモンド」と呼ばれ、堅く美しい石質と、石目が細かく細工しやすいこと、そして水にも劣化にも強いことから建築材や灯籠、墓石などに使用されています。

**純愛の聖地に立つ  
ロケ地の観光拠点**

ロケ地めぐりの拠点となるのは、映画に登場した、重じいの雨平写真館を再現した「純愛の聖地 庵治・観光交流館」です。「雨平写真館」の文字があるドアを開けると、ゆったりとしたスペースのカフェがあります。コーヒーマの香りに包まれながら窓の外を眺めると、瀬戸内の小さな町に住む映画の主人公になった気分。

また、観光交流館に隣接する、古い米蔵を再利用した展示棟には、映画で使われた小道具やロケ地の解説パネルが展示されています。出演者が一番印象に残っているシーンを撮影した場所や、エピソード、御食事処など、町の地図と一緒に確認できます。まずはここで情報を収集して町をめぐりましょう。

**80年代の町並みが残る  
おだやかな海辺の町**

撮影場所を探して四国中を巡った監督やスタッフが、最後にたどり着いたのが庵治町でした。花崗岩の層からなる五剣山の麓に位置し、花崗岩のダイヤとも呼ばれる庵治石を産することで知られる当町ですが、監督は瀬戸内海に突き出した半島の地形に注目。初めて訪れた時に、忘れてしまったような懐かしさがあると庵治町の風景に魅せられ、即座にロケ地に決定しました。

庵治町を歩くと、あちらこちらにサクとアキの面影が見つかります。アキが待っていた桜八幡神社の石段と赤い欄干の宮の下橋。二人が夕陽を見つめた王の下沖防波堤。ウォークマンを見つけたシューウィンドウのある商店街。切なくドラマチックな物語とは裏腹に、おだやかな海沿いの町の風景に心安らぎます。



「100年の半分も、ひとりの人のことを想っていられるなんて」とサクがつぶやく、まさに純愛の聖地、皇子神社のブランコ。



アキがサクを待っていた桜八幡神社の石段と赤い欄干の宮の下橋。ここから二人の恋が始まります。



住まいの近くに写真館のセットがあった元家幸子さん。「出演者の方々とはなまな気さくで、撮影前に一緒にコーヒーを飲んだり、記念撮影をしたり、良い思い出です」

サクとアキが二人で夕陽を見つめ、大人になったサクが深い喪失感を抱きながら海に向かって叫ぶ、王の下沖防波堤。入り江の向こうは源平合戦で有名な屋島。

映画『世界の中心で、愛をさけぶ』のロケ地へ  
香川県高松市  
**庵治町**  
あ じ ち ょう



【物語】昭和61年夏、同じ高校に通う朔太郎とアキは、いつしか互いに惹かれ合い、恋に落ちる。二人で見る夕陽。カセットテープの交換日記。無人島への旅。そんな幸せな日々が、アキの突然の病によって終わりを告げる。約束だった世界の中心への旅も果たせぬままに。

【世界の中心で、愛をさけぶ】好評発売中 / 発売元：博報堂DYメディアパートナーズ・小学館 / 販売元：東宝

感涙を誘った  
物語の舞台はおだやかな  
海沿いの町だった。

高松中央ICより国道11号経由で約25分。静かな漁港の町、高松市庵治町に到着します。瀬戸内のこの小さな町で、大ヒット作品『世界の中心で、愛をさけぶ』が撮影されました。町のシンボルとして古い写真館のロケセットが再現され、「純愛の聖地 庵治・観光交流館」として、旅人たちを迎えています。



**純愛の聖地 庵治・観光交流館**

- 📍 香川県高松市庵治町5824-4
- ☎ 087-812-2270(よんてつ不動産)
- 🕒 【観光交流館】9:00~17:00(入館は16:30まで)  
【カフェ】10:00~16:00(L.O.15:30)
- 🔥 火曜日
- 🅕 あり

電話予約をする  
と店頭でも買える  
旬の魚を使った  
宇賀幸のこだわりのお弁当。



元々は5代つづく魚屋で先代から出し・弁当を始めました。今も調理場に立つ先代と当代が腕を振るい、名店の味を守っています。とくに、讃岐特産大豆を使った秘伝の白味噌に漬けた「鱈の味噌漬け」が有名でネットによるお取り寄せでも大人気です。

### 宇賀幸

- 📍 香川県観音寺市栄町2-4-17
- ☎ 0875-25-2848
- 🕒 8:00~17:00
- 📅 不定休
- 🅐 あり



【物語】昭和40年3月、主人公は、ラジオから流れてきたエレキサウンドに大きな衝撃を受け、高校に入学するとバンドを結成。高校生活のすべてをロックにかける。楽器を買うためにアルバイトにいそむ日々。メンバーとの友情。淡い恋心。海沿いの小さな町を舞台に、若者の熱く切ない3年間の青春が描かれる。

『青春デンデケデケデケ』デラックス版 / DVD ¥4,700(税抜) / 発売元: NBCユニバーサル・エンターテイメント ※2019年3月の情報です。



映画では「しーさん」と妹の悦子が、武士に扮したちっくんを見送った場所として登場する財田川沿いの風景。手前のレンガ橋(琴弾橋)の向こうに見えるアーチ形の三架橋は琴弾八幡宮への「参賀」の際に渡ることから称されたともいわれます。

市の中心部から少し足を伸ばすと、市指定文化財の五百羅漢で知られる七宝山蓮光院羅漢寺があります。大同3年(808)に弘法大師によって開基された真言宗の古刹で、松木造、高さ約30cmの羅漢像500体すべてが安置されています。映画ではバンドメンバーの富士男の実家となり、寺内の一室には富士男の部屋を作り込み、いくつもの重要なシーンが撮影されました。公開から25年以上経った現在も熱心な映画ファンが訪れます。

### 九十九山の麓に佇む 五百羅漢の寺「羅漢寺」

息が、ロックバンド「デジャヴ」のメンバーで、本作の制作と方言指導でロケに参加したことが縁で、毎日、献立をかせ、旬の魚が味わえる贅沢なロケ弁を届けました。その美味しさや心配りに、出演者やスタッフみんなが大いに励まされたそうです。



羅漢堂を建立し、筑紫から五百羅漢を招聘。しかし、戦国時代に幾度か戦火に見舞われ、延宝3年(1675)に再び五百体すべてを揃え、現在も安置しています。

### 七宝山蓮光院羅漢寺

- 📍 香川県観音寺市室本町314
- ☎ 0875-25-2266
- 🅐 あり

富士男とちっくんが内密な話をする時によく登場した羅漢寺の鐘楼。



琴弾八幡宮の石段の登り口の石之鳥居は丸亀藩主山崎虎之助治頼が承応2年(1653)正月に奉納したものです。



2kmにわたって白い砂浜が続き、海水浴場としても賑わう遠浅の有明浜。燈臺に沈む夕陽は絶景です。

### いっぶく スポット

#### 新感覚の味を発信する路地裏のかまぼこ屋

#### 「山地蒲鉾」

古くから燈臺の豊富な魚を食材とした蒲鉾の一大産地だった観音寺。当地で、ひと味ちがう蒲鉾作りチャレンジし、「カワジャン」のヒット商品で知られるのが山地蒲鉾です。路地裏の風情漂うお店を訪ねると、いいだこ天や骨付き鶏天など、新感覚の練り製品と出会えます。

- 📍 香川県観音寺市観音寺町甲2695
- ☎ 0875-25-3609
- 🕒 10:00~18:00
- 📅 年末年始 🅐 あり

魚のすり身に鶏皮とごぼうを練り込んだ大ヒット商品「やまのかわジャン」



### 映画『青春デンデケデケデケ』のロケ地へ

# 香川県 観音寺市

### 橋のある風景に 物語がよみがえる

観音寺市の中心部を車で走ると、ロケ地マップを手にしていきななくとも、いつしか作品の世界へと引き込まれます。財田川に架かるレンガ橋や三架橋、大小路橋は、主人公、ちっくんの通学路であり、青春のさまざまなシーンを彩る風景でした。三架橋にほど近い緑豊かな山には琴弾八幡宮が鎮座し、381段の長い石段は、バンド練習の場面にも登場しました。創建大宝3年(703)の由緒を紐解くと、ある時、海に二艘の船が現れ、高妙神秘的な琴の音とともに八幡大菩薩が降臨したと伝えられています。神秘的な琴の音と、ちっくんが啓示を受けたエレキサウンドには深い縁があるのかもしれない。

エレキ少年が  
青春を駆け抜けた  
叙情あふれる風景をゆく。

原作小説の作者が青春時代を過ごした観音寺を舞台にすべてのロケーションを敢行した『青春デンデケデケデケ』。市内を散策するとスクリーンで観た風景が自然と目にとまり、新たな感動とロケ地を旅する楽しさが広がります。

ちっくんと富士男が進学について話すシーンに登場した琴弾山頂の展望台からは観音寺を代表する名勝「銭形砂絵」を俯瞰することが出来ます。この巨大な寛永通宝は、寛永10年(1633)に藩主・生駒高俊公を歓迎するために一夜にしてつくられたといわれています。さらに、砂絵の向こうには白砂青松百選に認定された観音寺松原(瀬戸内海国立公園)が広がり、ちっくんと幸代が初デートをした有明海水浴場が見えます。

### ロケ隊を支えた 名店「宇賀幸」の味

「弁当の味が午後の俳優の顔を变える」。そんな名言をもつ監督を喜ばせたのが、仕出しの名店「宇賀幸」の弁当でした。先代社長のこ子



東西122m、南北90mの巨大な銭形砂絵。日没から22時まで美しくライトアップされます。



高知市の中心、帯屋町商店街にある「ほにや本店」。2階には粋な和のテイストが光る服や雑貨をはじめ、よさこい関連グッズが並びます。1階は高知の特産品を集めたショップで他にはないお土産物を買えます。



### ほにや

- DATA 高知県高知市帯屋町2-2-4
- 088-872-0072
- 11:00-19:00(変更の場合あり)
- 水曜日、不定休あり
- あり



はりまや橋  
高校生の香織がかんざしを新平にねだるシーンの背景となった橋。



よさこい祭りのために東京から舞い戻った新平とさくらが再会した高知城下の橋。



よさこいは、  
前に、前にすすむ  
踊りやき。

小児がんと闘いつづける少女が、  
ようやく見つけた生きる証しは、  
力強く、前に進むよさこい鳴子踊りでした。  
熱狂のパフォーマンスに  
生命の輝きがほとぼしります。



### 時代とともに進化し 前進するよさこい祭り

よさこい祭りは、太平洋戦争や昭和南海地震  
によって疲弊した人々の気持ちを元気づけよう  
と地元商工会などが中心となって昭和29年  
(1954)に始まりました。氏神や藩主に奉納  
する伝統的な祭礼ではなく、市民のためにスタ  
トしたよさこい祭りは、自由を尊ぶ県民性と相  
まって、ロックやサンバなど、さまざまな要素を採  
り入れ、時代とともに進化してきました。毎年、  
創意工夫をこらした振り付けや音楽、衣裳で新  
たな踊りにチャレンジする姿勢や、一糸乱れずエネ  
ルギッシュに前進する躍動感、見る者にも感動  
と生きる力を与えてくれます。まさに映画の中  
で小児がんと闘うさくらが、よさこい祭りを  
目標に、力強く前に向かって生き抜く姿は、よさ  
こいの神髄を伝えるものです。  
そんなよさこいの熱気は、祭りの期間だけでは  
なく1年中、高知市内のロケ地をはじめ、いたる  
所で感じることができます。

映画『君が踊る、夏』のロケ地へ

高知県

# 高知市

【物語】かつて、よさこいチーム「いちむじん」で活躍し、今は東京で暮らす新平は帰郷した際に高校時代の恋人、香織と再会する。そして、その妹のさくらが小児がんに冒されていることを知る。「いちむじん」でよさこいを踊ることを夢みるさくらのために新平たちはチームを再結成し、本祭りをめざす。

### 実話が映画になった 「ほにや」よさこい鳴子踊り

よさこい祭りは毎年、8月9日から4日間に  
わたって繰り広げられる四国三大祭りのひとつで  
す。期間中は市内中心部のアーケードや駐車場、  
車道までもが競演場や演舞場となり、全国から  
200組を超えるチームが参加。2万人近い踊  
り子たちがそれぞれのチームの個性を打ち出し  
た振り付けや音楽で熱狂的に踊りつづけます。  
よさこい大賞の常勝チーム「ほにや」を率い、「君  
が踊る、夏」の制作に深く関わった泉真弓さん  
にお話をうかがいました。

映画『君が踊る、夏』は、小児がんと闘う7才の  
女の子の実話が元となっています。3才で発症  
し、闘病生活をつづけながら、明日をも知れない  
日々の中で、チーム「ほにや」で踊ることを生まれ  
て初めての目標とした少女。やがて医師も驚くほ  
ど奇跡的に元気を取り戻した少女の姿はチーム  
の仲間にも勇気をもたらしました。泉さんいわ  
く、「気持ちも、体も、前に前に進むのがよさこい  
の精神」。ただ、踊りを披露するのではなく、みん  
なでつくりあげてこそよさこい、といえます。



土佐の名家老、深尾弘人蕃頭(ひろめしげあき)の屋敷跡一帯に立つ市場。土佐の名物や特産品を食べたり、買ったりできる楽しい商業施設です。地元の人や観光客で朝から賑わっています。

### ひろめ市場

- DATA 高知県高知市帯屋町2-3-1
- 088-822-5287
- 【平日・土曜・祝】9:00~23:00
- 【日曜】7:00~23:00
- ※営業時間は店舗により異なります。
- 元日は約6日程度。
- (詳しくはお問い合わせください)
- あり

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、  
営業時間等が変更されている場合があります。  
事前に公式HPをご確認ください。



土佐といえば、やっぱりかつおのたたき。  
やいろ亭では、新鮮でたたきに合うかつおを仕入れ、  
都会ではなかなか食べられない絶品のたたきに仕上げています。



毎年、見事なパフォーマンスで観客を魅了するチーム「ほにや」。2018・第65回よさこい祭り「大賞」に輝きました。



### 茶房こもん

昭和52年(1977)に開店したワッフル専門店。「転校生」にも登場し、映画ファンなら一度は立ち寄りたお店です。定番のワッフルから季節の果物を使った限定メニューまで専門店のこだわりの味が楽しめます。

- DATA 広島県尾道市長江1-2-2
- 0848-37-2905 11:30~17:30
- 火曜日(祝日は営業)
- あり



ご主人の大谷さんは『転校生』以来、大林作品の映画づくりに手弁当で参加して約40年。大林宣彦監督が20年ぶりに尾道で撮った『海辺の映画館』(2019年公開予定)にも制作スタッフとして参加しました。

### 映画を受け入れる 尾道の街と人々

『転校生』をはじめ、数々の大林作品の地元協力スタッフとして制作に携わってきた「茶房こもん」のご主人・大谷治さんにお話をうかがいました。『転校生』のロケに参加したのは監督やスタッフが茶房こもんを打ち合わせに利用していたことがきっかけでした。

「とにかく製作費が少なかったので借り物競走みたいに小道具を集めることから始まりました」と当時を振り返る大谷さん。

古くから商売で栄えた尾道には、何かを創ろうとする人々を手助けしようという土壌があったといいます。撮影のために自宅を提供してホテル暮らしをする家族。ロケの準備をかってでる監督の同級生や地元の人たち。そんな街と人に支えられ、『転校生』は完成しました。

これまで尾道は数多くの映画やドラマのロケ地となり、街の人々はごく普通にそれを受け入れ、見守ってきました。尾道が映画の街といわれるゆえんです。

ただ美しいだけでなく、そこに暮らす人々の会話まで聞こえてきそうな尾道。あなたもデジカメを手に1本のショートムービーを撮るように散策してみたいかがでしょうか。主人公の一夫が尾道の風景を撮りつづけたように。



一美が自転車に乗って全速力で駆け上がる尾道駅東側の跨線橋。思いの外、勾配がきつくて驚きます。



一夫と一美が入り替わる御袖天満宮の石段。だれもいない静かな境内に響く空き缶の音が記憶にのこります。



信行寺の石段途中の踏切。貨物列車の通過を待つ間に画面がモノクロームからカラーに変わり物語が進みます。



引越しの荷物を積んだトラックを追いかける一美と、その姿を8ミリに撮る一夫が印象的な尾道市役所前でのラストシーン。

### 迷いながら出会う 私だけの尾道

尾道水道を行き交う渡し船。山々の中腹に点在する神社仏閣。坂道に連なる民家の瓦屋根。初めて来た人も、何度目かの人も、箱庭のような景観に心を奪われます。

尾道で生まれ育った大林監督が手がけた『転校生』。そこには、どの街にも似ていない尾道らしい景色が詰まっています。一夫と一美が入れ替わった御袖天満宮の石段。信行寺につづく石段の途中の踏切。千光寺公園のミニテリアスな巨石群。一美が自転車で駆け上がるJR山陽本線の跨線橋。街中に散らばる映画の風景をひとつひとつ探しながら迷子のように歩くと、きっとガイドブックにはない、あなただけの尾道の魅力が見えてきます。

映画『転校生』のロケ地へ

広島県!

# 尾道市

## 映画のかけらを 拾い集めながら 迷うように歩く尾道。

すべては『転校生』から始まりました。後に尾道三部作が公開されると年間数万人のファンが尾道を訪れ、ロケ地巡礼の先駆けともなりました。いま、再び、尾道を再訪する人が増えていきます。あの頃と同じ尾道の風景が、今の自分に語りかける。何かをたしかめに。

坂の町・尾道の路地や階段を  
迷いながら歩いてみよう



一美が転校してきた日の帰り道、どこまでもついてくる一美をやりすこそうと一夫が身を隠す石の階段。路地の雰囲気も当時のままです。



TOMのマスター秘蔵のアルバム。映画の出演者や撮影シーン、TOMを訪れた錚々たる芸能人が映っています。

### きつ粋

地元の食材にこだわり、旬の新鮮な魚介類を使った料理が評判の居酒屋。尾道の味と広島のお酒を堪能できるおすすめのお店です。じつは、こちらは大林組のもうひとつのスタッフルームともいわれ、作品のエンドロールにも登場したことがある「喫茶TOM」のマスターのご子息のお店です。今はリタイアしたマスターが顔を出し、映画ファンと語り合う夜もあるそうです。

- DATA 広島県尾道市土堂2-7-4
- 0848-21-2357
- 18:00~(24:00~バータイム)
- 不定休 あり



[物語] 主人公の斉藤一夫のクラスにある日、幼なじみの斉藤一美が転校してくる。2人は下校途中に石段から転げ落ち、男女の身体のまま、心だけが入れ替わる。思春期の異性の体にとまどいながら、周囲にさとられぬよう中学生生活を送り、やがて元の自分たちに戻れた時、2人の間に淡い恋慕が芽生える。

『転校生 ~DVD SPECIAL EDITION~』好評発売中  
¥4,800(税抜) / 発売元:パップ / ©NTV.ATG

# 旅先で



# 映画を楽しもう



## シネマ尾道



### 映画の街に帰ってきた映画館

JR尾道駅前にレトロな雰囲気映画館があります。昭和22年(1947)に旧「尾道松竹」として開業。全盛期には尾道市内に20館あったという映画館のうち最後まで営業をつづけたが、平成13年(2001)に惜しまれつつ閉館しました。

そんな時、京都での大学生活を終えて帰郷したシネマ尾道・代表理事の河本清順さんは、映画の街に映画館がないことに寂しさと悔しさを感じ、仲間と共に「尾道に映画館をつくる会」を立ち上

げます。そして、多くの市民の賛同を得て平成20年(2008)、旧「尾道松竹」を改装して「シネマ尾道」をオープンしました。

シネマ尾道の魅力は、ビルの中ではなく、映画館自体が映画を観るために造られた建物であることです。シネコンのようなすり鉢状のフロアではなく、平坦な床で、舞台付きのスクリーンは見上げるような高い位置にあります。これが昭和の映画館のスタイルです。メジャーな作品は少ないですが、なかなか目の見えない作品に映画の多様性やおもしろさがあると信じて、河本さんたちはシネマ尾道らしい作品を上映することを心がけています。映画を観てから散策するのも尾道にぴったりの楽しみ方です。



映画の楽しさをさまざまな形で発信しつづける「シネマ尾道」代表理事・支配人 河本清順さん。



かわいい「シネマ尾道」オリジナル手ぬぐいも販売。とっておきの尾道みやげにぴったりです。



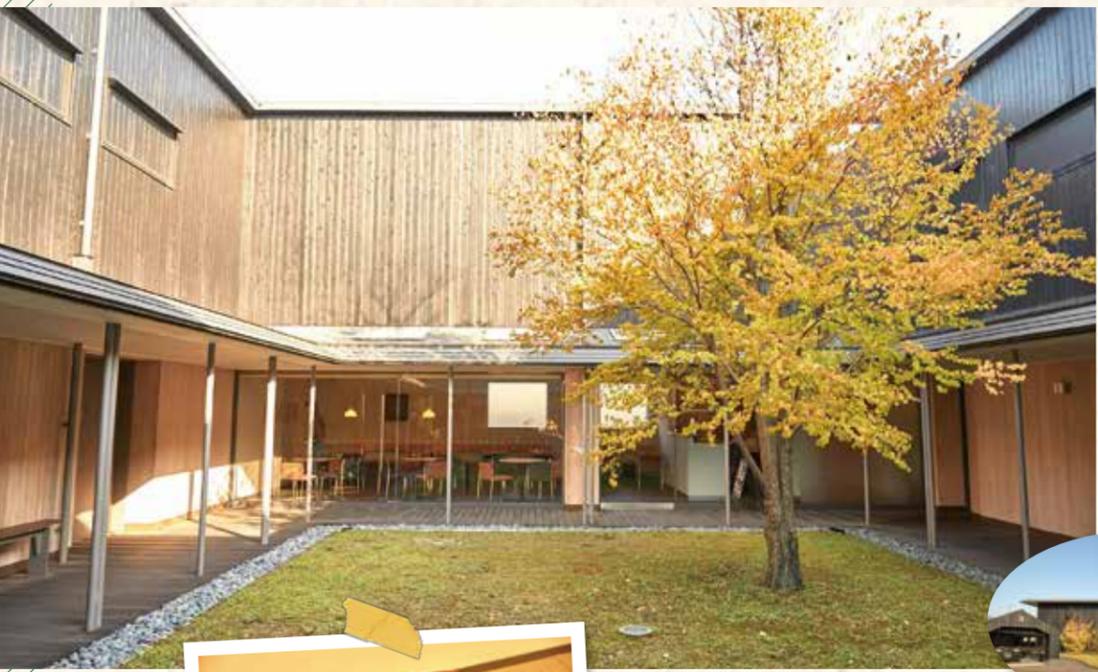
現在の建物は昭和37年(1962)に建て替えられました。エントランス左の大きなウィンドウが圧巻。

### シネマ尾道

- DATA 広島県尾道市東御所町6-2
- TEL 0848-24-8222
- 休 無休
- 営 なし

JR尾道駅から徒歩30秒独自の視点で選んだ個性的な作品を週替わりで上映しています。子供たちに映画のおもしろさや映画づくりを体験してもらうワークショップも開催。著名な映画人による対談や舞台挨拶でも知られています。

## 伊丹十三記念館



### 13の顔をもつ男の生き方に迫る

商業デザイナー、俳優、エッセイスト、CM作家、テレビマン、雑誌編集長、そして、映画監督として多彩な才能を発揮した伊丹十三。「伊丹十三記念館」は、松山で多感な青春を過ごした彼の足跡や仕事ぶり、人となり、より身近に感じることのできるミニシアターです。

国道のそばにありながら、建物に入っただけから静かな異空間に引き入れられた感覚を覚えます。タンポポが植えられた中庭に佇む一本の桂の木。回廊のように中庭を取り囲む展示室。これらは建築家・中村好文氏の設計によるものですが、建築作品を目当てに来館する人も少なくないそうです。



監督使用台本。セリフの変更・カット割り・カメラ位置などの書き込み、伊丹十三の旺盛な仕事ぶりが感じられます。



映画監督だった父・伊丹万作(松山市出身)が軍国色の強いカルタを書き換え、十三と妹のために手作したカルタ。

敷地内に展示されている最後の愛車ベンツ。乗り物マニアの伊丹の若い頃からの憧れでした。



### 伊丹十三記念館

- DATA 愛媛県松山市東石井1-6-10
- TEL 089-969-1313
- 営 10:00~18:00(入場は17:30まで)
- 休 火曜日(祝日の場合は翌日)・年末年始及び保守点検日
- 備 あり

松山ICから国道33号経由で約5分。伊丹十三の映画やエッセイ、CM作品などに関する展示をはじめ、猫好き、乗り物マニア、料理通としての含蓄にふれます。毎月、13日13時から展示室モニターを使った伊丹作品の上映もあります(スケジュールは要確認)。

いっぶく  
スポット



出湯と渓谷の里 鈍川温泉・鈍川せせらぎ交流館

道後・本谷とともに伊予の三湯といわれ、ラドン含有量が高いアルカリ性単純泉でph9.9を誇る国内屈指の美人の湯。温泉郷の入口に立つ「鈍川せせらぎ交流館」は日帰り入浴が楽しめる温泉施設です。石けんやシャンプーの販売、貸しタオルもあって気軽に立ち寄ることができます。サウナ好きの方に好評のテントサウナ(レンタル)を予約すれば、清流と生い茂る緑の木々を眺めながら自分のペースでどこのうともできます。軽食コーナーではダム湖をかたどった砥部焼の器に入った名物ダムカレーが食べられます。

DATA 愛媛県今治市玉川町鈍川甲218-1 0898-55-4477  
10:30~21:00(20:30札止め)・軽食コーナー(お昼の時間帯)  
第2・4日曜日(祝日の場合は以降間近の平日)および12/31・1/1 あり



鴨池海岸の沖合いには弓杖島をはじめ、小さな島影が点在し、瀬戸内らしい景観をつくっています。



悦子が沖合いをゆくボートを見つけるシーンで飛び降りた堤防。想像以上の高さに驚きます。



映画作りの拠点となった玉川湖畔のクラブハウス



ボート競技のエキスパート、井手勝敏先生。撮影のために玉川湖にロープを張って漕艇コースをつくったり、撮影用のボートを自作したり、大いに尽力されました。



負けることの  
その先にあるもの

名門 今治西高等学校ボート部の監督として数々の栄冠をもたらした、映画『がんばっていきまっしょい』では制作のキーパーソンとなった井手勝敏先生にお話をうかがいました。井手先生は、当時、難航していたロケ地の選定に鴨池海岸を提案。それまで瀬戸内を2周してロケハンをつづけてきた監督やスタッフが目見ただけで即決したといえます。さらに、ボート競技の専門家として技術指導はもとより、セリフやシナリオについてもアドバイスを惜しみませんでした。とくに全国大会の予選の勝敗については予選敗退を進言。その理由は、ボート競技の神髄は勝つことよりも負けて、さらなる鍛錬を積み、次の試合に挑むことにあるからです。最終的には悦子たちが敗退するストーリーとなり、それによって「がんばっていきまっしょい」の言葉が、さらに味わい深く響きました。

「キャッチ！ロウ！」  
かけ声とともに、  
うたかたの夏が過ぎていく。

原作小説の世界を表現するために  
南予の町から今治の海、山間の湖までロケを重ねた本作品。  
愛媛県各地の風景に、うたかたのように過ぎ去っていく  
青春の一頁が美しく描かれています。

映画『がんばっていきまっしょい』のロケ地へ  
愛媛県  
今治市

[物語] 昭和51年春、高校入試をひかえた悦子は海を眺めながら競技用ボートの姿に心奪われる。これまで何となく生きてきた自分と決別し、入学した高校で女子ボート部をつくらうと一念発起。男子部員に混じって練習し、一年後には仲間とともに全国大会をかけた試合に出場するまでに成長する。



ロケ地 松山

悦子がおいそうに鍋焼きうどんを食べるシーンに登場した「ことり」。創業昭和24年、現在は森田史之さんとご家族が昔ながらの味を守っています。伊予灘のいりこ利尻産の昆布を使った出汁に甘辛く炊いた肉の甘さがじわりと溶け込み絶妙のおいしさです。松山を訪れたら何としても食べたい地元のソウルフードです。

ことり  
DATA 愛媛県松山市湊町3-7-2  
089-921-3003  
10:00~14:00  
(売切次第終了)  
水曜日、不定休あり  
なし



青春の残像が映える  
瀬戸内の絶景

松山市内の高校を舞台に書かれた原作小説の一部を映画化した『がんばっていきまっしょい』。風光明媚な瀬戸内の風景の中、女子ボート部の創部に奮闘する悦子とその仲間たちの姿がまぶしく描かれています。艇庫のある練習場所として登場する鴨池海岸は瀬戸内海国立公園に属し、約800mにわたって白い砂浜がつづく美しい海岸です。とくに、物語の始まりのシーンとなった夕刻の景色は素晴らしく、絶好の夕景スポットとなっています。

もうひとつの主要ロケ地である今治市の山間の玉川(ダム)湖は、作品の大きな山場となる全国大会予選の試合会場として登場します。玉川湖公園やキャンプ場も整備され、春の桜、秋の紅葉シーズンには行楽客で賑わいます。また、近くには名湯として知られる鈍川温泉があり、ドライブの途中にも気軽に立ち寄れる日帰り温泉施設が人気です。

じつは、ロケ当時は玉川湖に漕艇コースはなく、撮影のためにロープを張り、急ごしらえで試合会場がつけられました。実際には、ここで出演者のボートの技術指導やミーティングなどが行われ、今も湖畔に立つクラブハウスはロケの重要な拠点となりました。後に国民体育大会の開催を機に、正式な漕艇コースが設けられ、現在は愛媛県のボート競技のメッカとなっています。また、この場所ではテレビドラマ版『がんばっていきまっしょい』の撮影も行われました。



**阿波おどり会館**  
阿波おどり会館では1年中、阿波おどりの公演が見られ、徳島土産のショッピングも楽しめます。5階は眉山ロープウェイ山麓駅です。



**眉山頂上**  
山頂展望台からは市街地や吉野川の河口が一望できます。また、よく晴れた日には大鳴門橋や明石海峡大橋も見えます。



**ひょうたん島クルーズ**  
「新町川を守る会」理事長の中村英雄さんはロケにも協力され、咲子と寺澤が川沿いを肩を寄せ合って歩くシーンは中村さんが操船する船の上から撮影されたそうです。

乗船約30分、乗船料：大人(中学生以上)400円、小学生以下200円

龍子と咲子の会食シーンが撮影された名門料亭。約1,000坪の庭園を眺めながら食事が楽しめます。予約すればランチメニューも。また、利用状況によってはロケの座敷への案内も可能です。



**涓水苑 いすいえん**  
 徳島県徳島市沖浜東1-54  
 ☎ 088-626-0080  
 営業 11:00~13:00、17:00~20:00  
 休 月曜日・火曜日(祝日は除く)  
 ※水曜日はディナーのみ(祝日は除く)  
 ※定休日・営業時間等詳しくはお問い合わせください。  
 📍 あり



# 眉山の緩やかな稜線を眺め、最愛の人を想う。

母の生き方と娘の恋を見つめながら親子の情愛を描いた映画『眉山』。そこには徳島の伝統文化である阿波人形浄瑠璃の名作『傾城阿波の鳴門』の物語がそっと重ねられています。

**物語を美しく彩る水の都徳島の景観**

「眉山をあの人だと想って、おまえと二人、ここで生きていこう」。

龍子の言葉の通り、眉山が見える徳島の町々でロケが行われました。咲子が母の主治医 寺澤と歩く雨上がりの新町川水際公園。阿波おどりの総踊りを再現し、映画のクライマックスを飾った南内町・徳島こども交通公園。美しい庭園を背景に母娘が食事をする涓水苑。どの場所も、感動の場面がよみがえります。

ロケ地や観光スポットを川沿いに巡るおすすめのコースに「ひょうたん島クルーズ」があります。長年、川の清掃活動をつづけるNPO法人「新町川を守る会」が、水都・徳島を川から見てもらおうと遊覧船によるクルージングをスタート。市内中心部をぐるりと一周する間に、船上から眺める町並みや眉山の姿は格別です。



映画の撮影が行われた座敷。四季折々の表情を見せる庭園を背景に贅沢な時間が過ごせます。



阿波十郎兵衛座・座長の高野文子さんは、ロケ当時は当館の職員でした。映画の中でもとくに重要なシーンの撮影とあってエキストラの方々も緊張気味だったそうです。高野さんは人形遣いとして当館の舞台でも活躍中。人形浄瑠璃は毎日上演されています。

**徳島県立阿波十郎兵衛屋敷**

徳島県徳島市川内町宮島本浦184  
 ☎ 088-665-2202  
 営業 9:30~17:00(7/1~8/31は18:00まで)  
 【定期上演】1~2月 11:00  
 3~12月 11:00、14:00  
 [8/12~8/15] 10:00、11:30、13:30、15:00  
 ※上演時間等変更する場合があります。事前にお問い合わせください。  
 休 12/31~1/3 📍 あり  
 ※上記のほか臨時休館する場合もあります。



映画『眉山』のロケ地へ

徳島県

# 徳島市



【物語】母の手ひとつで育てられ、今は東京で暮らす咲子。ある日、母の龍子が入院したと聞き、郷里の徳島に帰るが、末期がんで余命数ヶ月と告げられる。さらに自らの出生の秘密や死別したはずの父が東京にいることを知り、神田生まれの母が咲子と徳島で暮らしてきた理由に向き合うこととなる。

『眉山ーびざんー』好評発売中 / 発売元：フジテレビジョン・東宝 / 販売元：東宝

**映画の伏線となった阿波人形浄瑠璃**

映画の中にはいくつか人形浄瑠璃にまつわるシーンが出てきます。龍子が病院のベッドで朗々と浄瑠璃を語り、高校生の咲子に父のことを告げる場面ではテレビに映った人形が効果的に使われています。どの場面でも演じられているのは、幼い娘が巡礼姿で生き別れになった両親を訪ね歩く『傾城阿波の鳴門』。とさんの名は十郎兵衛の台詞で有名な人形浄瑠璃の代表作です。

なかでも極めつきのシーンは死を覚悟した母と娘がそれぞれの想いを胸に一緒に人形浄瑠璃を観劇する場面です。この場面が撮影されたのは徳島県立阿波十郎兵衛屋敷。まさしくここは、『傾城阿波の鳴門』のモデルとなった板東十郎兵衛屋敷跡に立つ文化施設です。館内には阿波人形浄瑠璃に関する貴重な資料が展示され、その成り立ちや歴史などを知ることができます。さらに、徳島県内の人形座の方々によって毎日、国の重要無形文化財「阿波人形浄瑠璃」がライブで上演されています。観劇の後は人形と記念撮影をしたり、人形遣いの方に質問をしたり、貴重な体験が楽しめます。また、敷地内に現存する母屋や純日本式庭園「鶴亀の庭」も見の価値があります。ロケ地として訪ねるとともに、阿波人形浄瑠璃に触れて、映画をより深く味わってはいかがでしょうか。



母親のお弓は、巡礼が娘のお鶴と知りますが、災いに巻き込まれることを案じ、涙をこらえて名乗ることをとどまる見せ場のシーン。



映画のオープニングシーンとなったおろち峠のループ橋展望台からの眺め。ロケ地めぐりもここからスタートするのがおすすめです。



チームメイトのサワの実家となった大福寺の鐘付き堂とケヤキの大木。葉が茂っている時はループ橋展望台からも見つけることができます。



巧と青波が自転車で2人乗りして下ってくる備中松山城遊歩道近くの坂道。軟式ボールを握りしめた青波の手が印象的でした。



ロケ地めぐりで多くの観光客が高梁を訪れてくれることが大きな喜びと語る「たかはしフィルム・コミッション」の石井会長。

映画『バッテリー』のロケ地へ

# 岡山県 高梁市



【物語】中学入学を控え、家族で岡山県に引っ越してきた原田巧。巧はピッチャーの素養に優れ、同級生の永倉豪とバッテリーを組み、中学校の野球部に入部する。しかし、部活に馴染めず、さらには病弱の弟、青波のことを気遣いながらも、巧はチームメイトともに野球への熱い想いを全うする。

『バッテリー』/DVD¥2,800(税抜)/発売元・販売元:株式会社KADOKAWA

美しい山間の  
小さな城下町の風景に  
白球にかけた青春と友情が  
よみがえる。

映画のオープニングにあらわれるおろち峠のループ橋展望台から見下ろす高梁の街。四方を山に囲まれて、大小の川が流れ、そのしっとりとした佇まいに多くの人魅せられ、何かを期待します。映画『バッテリー』は、そんな想いに応えるように青春と友情あふれる物語を高梁の日常風景の中に昇華させた作品です。



## 美しい景観と文化財をめぐる 石火矢町ふるさと村

かつて備中(岡山県西部)の小京都と呼ばれ、高梁川の交易で栄華を誇った高梁市。天空の山城として有名な備中松山城を擁するその城下町には、藩政時代を偲ばせる古い武家屋敷や寺社が点在しています。

なかでも、白壁の長屋門や土堀がつづく石火矢町は岡山県より「石火矢町ふるさと村」の指定を受け、江戸時代に建てられた旧壇原家住宅と旧折井家住宅が公開されています。さらに、近くには小堀遠州作庭園で知られる頼久寺があり、城下町らしい景観の中、ゆったりと散策が楽しめます。



**武家屋敷・旧折井家**  
石火矢町ふるさと村は、江戸時代中期から後期に建てられた武家屋敷が約250mにわたって並び、当時は120~150石取りの武士が住んでいました。約180年前に建てられた旧折井家の書院造りの母屋では当時の暮らしがうかがえます。



**頼久寺の庭園**  
父の遺領一万石を継いで当地に住み、頼久寺を飯の館とした小堀遠州の作庭による蓬萊式枯山水。



**備中松山城・猫城主さんじゅーろー**  
平成30年の7月豪雨の後、備中松山城に住み着き、今は猫城主におさまっているさんじゅーろー。人なつこく、カメラを向けるとポーズをとることもあるそうです。  
提供(一社)高梁市観光協会

## いっぶく スポット

### VicchuNutGriglia ヴィッチュナッツ・グリッヤ

#### 巧の家でイタリア家庭料理が楽しめる!?

巧の家として登場する古いお屋敷のはなれを利用して平成29年4月にオープンしたヴィッチュナッツ・グリッヤ。特注炭火オープンを使った炭火焼き料理が人気です。Tボーンステーキや骨付き地鶏など肉料理をはじめ、手打ちパスタやピッツァ、スイーツまで本場仕込みのイタリアンが楽しめます。2階にはゆっくりとくつろげる座敷もあって気取らない雰囲気も素敵です。

- DATA 岡山県高梁市内上下47
- 0866-45-3154
- 12:00~14:00・18:00~LAST
- ※前日までの完全予約制
- 不定休
- 武家屋敷館駐車場や高梁市観光駐車場をご利用ください。



**ピッツァ・フリッタ**  
地元高校生たちに人気の揚げピザ。味はトマトソースがアップルシナモンが選べて、クラムチャウダー付き。

**骨付き地鶏の炭火焼き(要予約)**  
骨付鳥・手羽先・豚ロース・ポテトが入ってボリューム満点。

## 日常の風景に心惹かれる城下町

武家屋敷の前をゆるやかに下っていく一本の古道。それは、野球を愛する兄弟の純粋な気持ちを受け止められずに苦悩する母、真紀子の気持ちを暗示しているかのようです。

ロケ地は、ストーリーや登場人物の心情をも映す映画づくりの重要な要素です。2006年冬に、高梁市に持ち込まれた映画『バッテリー』の話は、それまで数々の映画やドラマの舞台となった地元にとって特別なものではありませんでした。しかし、「原作のイメージや監督の要望に応える撮影場所は容易に見つからず、いわば偶然の巡り合わせのように決まりました」と、たかはしフィルム・コミッション会長の石井雅之さんは当時を振り返ります。

監督自ら高梁市を訪れたロケハンでは撮影の候補地をいくつか案内しましたが、残念ながらイメージにあうところはありませんでした。しかし、その道すがら川沿いの古い屋敷が監督の目に止まりました。それが映画では巧たち家族が暮らす家として登場します。

学校の正門へとつづく通学路を横切るJR伯備線の踏切や、巧と青波が自転車で一気に下る坂道、街を一望するループ橋からの眺めなど、高梁の何気ない日常の風景が監督の心をつかみ創作意欲を大いに刺激することとなりました。地元の人たちにとって、見慣れたごく普通の景色こそが、監督が求めていたロケーションだったのです。



最昭和24年(1949)竣工の真鍋島小・中学校は昭和の雰囲気が漂う木造校舎(現在は学校敷地内への立ち入りはできず、外観のみご覧いただけます)。



真鍋島保育所の敷地に、「劇場版ラジエーションハウス」の診療所セットが作られ撮影されました。



真鍋島までのアクセス  
笠岡港から高速船で本浦港まで約45分。真鍋島には車の乗り入れはできません。笠岡港周辺の駐車場をご利用ください。



**いっぶく スポット**

**モトエカフェ**

2018年4月にオープンしたカフェ。自家焙煎にこだわり、いつでもおいしいコーヒーや自慢の手作りカレーが食べられます。さらに、もっと気軽に島を訪れてもらおうと低料金で宿泊できるゲストハウスも併設しています。

岡山県笠岡市真鍋島4073  
【カフェ】12:30~15:30 日祝日、不定休あり  
¥ ゲストハウス 1泊1名3,850円(税込) <https://manabeshima.info>



島を歩く映画のシーンで見た路地や建物が点在し、撮影当時を忍ぶことができます。真鍋家住宅は明治初期に建てられた木造家屋で、軒先には樹齢250年といわれるホルトノキがあります。また、近くには「なまこ壁」の建物もあり、ほとんどの観光スポットは本浦港から徒歩で回ることができます。歴史と映画の島をのんびり歩いて楽しみましょう。

### 楽しみ方もそれぞれ 真鍋島の魅力

2010年には島に長期滞在したフランス人イラストレーターが本国で真鍋島を紹介した本を出版しました。これが評判となって、欧米からも多くの観光客が訪れています。彼らは島民とふれ合ったり、山を散策したり、1日中、浜辺で読書をしてゆったりと流れる島の時間を楽しんでいます。それもまた島旅の大きな魅力です。

さらに、真鍋島は戦国時代に活躍した真鍋水軍や真鍋姓発祥の地であり、島の歴史や伝統文化に興味をもつて全国から多くの人が来島。真鍋氏門代々の墓である「五輪石塔群」や、国の登録有形文化財で、日本遺産の構成文化財にも認定されている「真鍋家住宅(室内非公開)」を訪ね、太古より連綿と流れる歴史に想いを馳せるのももうひとつの旅の楽しみです。

また、最近では、令和4年公開の「劇場版ラジエーションハウス」のロケ地にもなっています。

## 高速船に乗り、少年たちが駆けた島の景色に出会う。

淡路島が舞台の原作小説の映画化には、ロケ地として瀬戸内らしい笠岡諸島の真鍋島が選ばれました。30年以上もの月日が過ぎた今なお、緑豊かな自然とゆったりと流れる島の時間はそのままです。

笠岡港から高速船で真鍋島へ。船は白い航跡をのこしながら約45分で真鍋島本浦港に到着します。目的地の本浦港に近づくと、棧橋のすぐ向こうに映画に登場した海沿いの道路が見えます。それは、竜太やバラケツが駆け回り、さまざまな印象的なシーンが撮影された島のメインストリート。護岸の形や道幅は変わっていますが、漁村のどかな佇まいは、まぎれもなく映画『瀬戸内少年野球団』の舞台です。道路を渡って細い道に入っていくと昭和の匂いがのこる集落の中心部です。風に揺れる洗濯物、猫の額のような小さな畑。映画の中でも描かれていた島の暮らしを垣間見ることができます。撮影の時には「猫屋」の女主人にはさみ使いを手ほどきしたという島の床屋も今はもう廃業し、古い理髪椅子だけが取り残され、時の流れを感じさせます。

海沿いの道路を外れ、坂道を上ると漁村の家並みを見晴らす高台に出ます。さらに10分ほど歩くと眼下に「島宿三虎」が見えてきます。この宿の主人、久一博信さんは、撮影当時を知るだけでなく、エキストラとして映画にも登場。そして、三虎には監督や主な出演者が滞在し、オフの日は前の砂浜で海水浴を楽しみ、島の時間をのんびりと過ごしたそうです。

三虎に宿泊すれば、気さくなご主人からロケのエピソードや真鍋島について聞けるかもしれません。「岡山県ふるさと村」にも指定されている真鍋島で、豊かな自然や懐かしい風景とともに、海風の心地よさを感じながらほっこりと過ぎる時間を楽しみましょう。

### 変わりゆく風景に点在する 当時の面影

映画『瀬戸内少年野球団』のロケ地へ  
岡山県笠岡市

# 真鍋島



【物語】昭和20年9月、瀬戸内の島にある国民学校の初等科5年男組。敗戦による社会の混乱と大人たちの動揺に巻き込まれ、しだいに荒んでいく子供たち。生徒の心を救おうと女先生が決意する。「わたしたち、野球やりましょう」。子供たちは野球を通して成長し、やがて思春期の入口に立つ。

『瀬戸内三部作メモリアルDVDBOX』/¥12,800(税抜)/発売・販売元:ポニーキャニオン/©2003ポニーキャニオン



昭和41年創業の「島宿 三虎」。本浦港から山ひとつ越えた海沿いにあり、目の前には、まるでプライベートビーチのような砂浜が広がり、海には棧橋が浮かびます。本館は真鍋小学校の旧校舎を移築したもので、自慢の絶景露天風呂はご主人の手作り。食事は瀬戸内海の新鮮な魚介や自家菜園の野菜などを食材とした島ならではの旬の味が楽しめます。さらに、棧橋からは海上タクシーをチャーターして島巡りもできます。

**島宿 三虎**

岡山県笠岡市真鍋島2224  
0865-68-3515  
1泊2食付 12,000円(税別)~  
※土曜日および5・9月の連休と夏季は1,000円プラス、お盆と年末年始は2,000円プラス



今も昔もかわらない一途なおいしさ

せとうち



# ローカル麺の旅



## 愛媛県松山市 かめそば じゅん

昭和30年代から素朴な味わいのかめそば(焼きそば)が人気で、平成になって惜しまれつつ閉店した松山の名店「かめ」。その元オーナー直伝の味で、幻のかめそばを復活させたのが「かめそば じゅん」です。独特な食感をもつ長短の麺が混ざり合い、噛むほどに味が出て、削り節とじゃこのトッピングがさらなる旨味となって口中に広がります。

DATA ① 松山市二番町1-4-11  
② 089-921-0332  
③ 17:00~21:00(L.O.20:00)  
④ 第1・3月曜日、日曜日、祝日  
⑤ なし



## 徳島県徳島市 中華そば いのたに本店

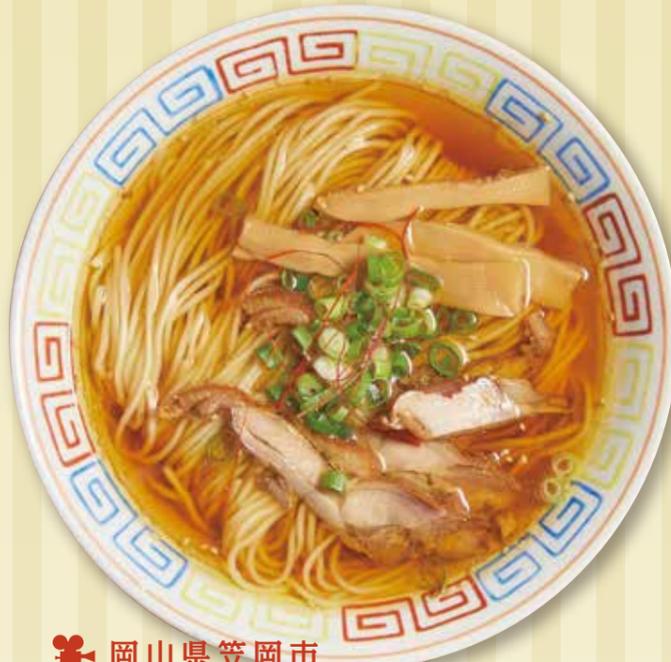
昭和41年(1966)創業の徳島ラーメンの名店。濃いめながら甘すぎず、コクのあるスープに細めの自家製ストレート麺がよく合います。甘辛く煮つけた豚バラ肉がおかず感覚を高め、白ごはんがほしくなります。玉子入りの場合は、玉子をつぶしながらスープや豚バラ肉と絡めて食べると、マイルドな味わいとなり、絶妙なハーモニーが楽しめます。

DATA ① 徳島市西大工町4-25  
② 088-653-1482  
③ 10:30~17:00(売切次第閉店)  
④ 月曜日  
⑤ あり

## 岡山県高梁市 インディアンマト焼きそば じゅうじゅう亭

昭和50年代に地元の学校給食で大人気だったカレー風味の焼きそばをヒントに、ふわふわの玉子焼きと高梁の特産品のトマトをトッピングしたイチ推しのB級グルメです。カレーの香りが立った焼きそばと玉子焼きが抜群の一体感を生み、さらに新鮮なマトの酸味がアクセントとなって味に彩りを添えます。色合いも美しく、食欲をそそります。

DATA ① 高梁市正宗町1967  
② 0866-23-1211  
③ 11:00~14:00(L.O.13:30)、17:00~20:00(L.O.19:30)  
④ 木曜日  
⑤ あり



## 岡山県笠岡市 こうのしま お多津

笠岡ラーメンの名店、元祖「斉藤」の味を受け継ぐお店です。鶏、魚介、香味野菜などから取った透明感のあるスープは上品で思わず飲み干したくなる味。養鶏が盛んだった土地柄もあって厚めの鶏チャーシューがのっています。

DATA ① 笠岡市神島4090  
② 0865-67-7200  
③ [平日] 11:00~14:00  
[金土日祝] 11:00~15:00、  
17:00~21:00(L.O.20:00)中華ソバと居酒屋メニュー  
④ 木曜日  
⑤ あり



## 高知県高知市 四万十ラーメン やいろ亭

土佐はちきん地鶏の鶏ガラとたっぷりの高知産野菜を煮込んで出汁をとったご当地ラーメンです。高知でも珍重される四万十川のおおさ海苔を天ぷらにしてトッピングした豪華な一品。汽水域でしかとれないおおさ海苔はサクサクとした上品な食感と豊かな香り。鶏ガラのさっぱりとしたスープにおおさ海苔の香りがマッチし、高知ならではの自然の恵みが味わえます。

DATA ① 高知市帯屋町2-3-1(ひろめ市場館内)  
② 088-871-3434  
③ [平日] 11:30~22:00、[日曜日] 10:30~21:00  
④ ひろめ市場休館日に準ずる。  
⑤ あり



## 香川県観音寺市 アン雑煮うどん かなくま餅福田

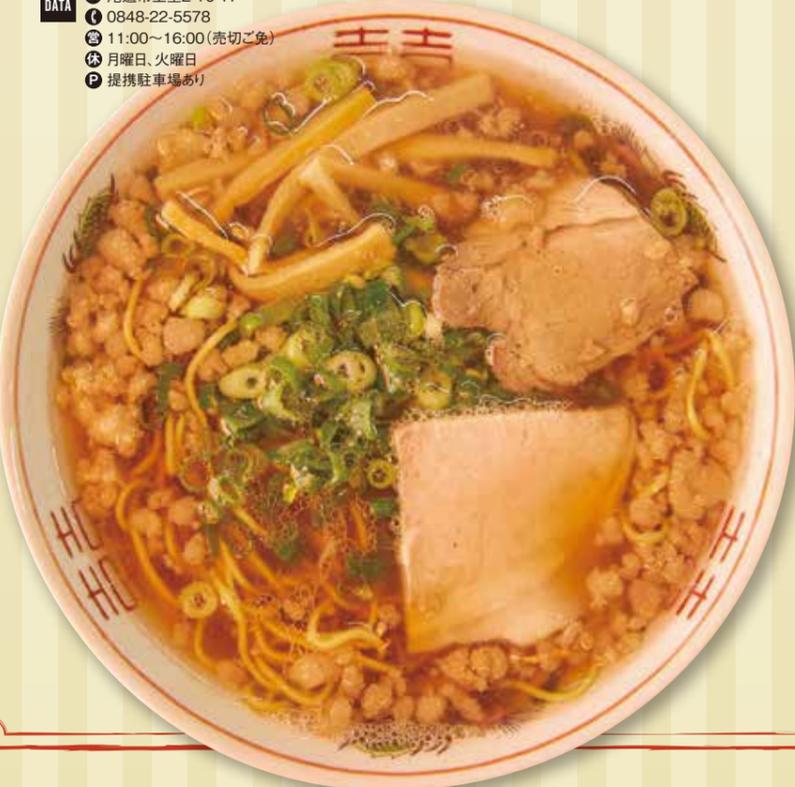
明治時代からつづく餅とうどんの老舗です。あんもちとうどん出汁の組み合わせは意外にも相性がよいことに驚きます。あんもちの両面に焼き色をつけてあることがミソ。杵つきの餅は出汁を吸ってもくずれることなく、あんの甘さもほどよい加減です。あん入りとあんなしが選べて、冬場限定の白みそ雑煮うどんも人気。いなり寿司や海老おこわなどご飯のものも充実。

DATA ① 観音寺市流岡町1436-2  
② 0875-25-3421  
③ 10:00~14:00ごろ(売切次第終了)  
④ 月曜日  
⑤ あり

## 広島県尾道市 中華そば つたふじ本店

昭和20年代から地元の人に愛され、昔ながらのおいしい中華そばを守りつづけている名店です。スープは、すっきりとした醤油味のあとに魚介系の旨味が追いかけてきて、背脂のほどよいこってり感も加わり少し濃いめの味わいです。麺に絡むと、味わいが少し薄めに変化して絶妙のバランスになります。スープをしっかりと味わい、麺との相性も楽しめる尾道を代表する一杯です。

DATA ① 尾道市土堂2-10-17  
② 0848-22-5578  
③ 11:00~16:00(売切ご免)  
④ 月曜日、火曜日  
⑤ 提携駐車場あり



# 平成昭和の思い出の品々

映画作品は、時代を映し出し、当時の暮らしを思い出させます。美術スタッフが東奔西走して集めた小道具がストーリーに奥行きを生み、観客を作品の世界へと導いてくれます。さらに、作品を通して、当時の自分を振り返ることも映画のもうひとつの楽しみです。

## 8ミリカメラ

8ミリカメラは、主に家庭用映画の撮影機材として1932年に米国メーカーから発売されました。日本ではマニアや富裕層の趣味として使用されましたが、昭和40年(1965)に日本のフィルムメーカーがマガジン式カメラとフィルムを発売。「私にも写せます」というキャッチフレーズとともに一般家庭にも広く普及します。家族の記録だけでなく、8ミリ映画の制作に没頭する学生や若者も多く、学園祭などで自主上映会などが盛んに行われました。



## ベルボトムジーンズ

ベルボトムは1960年代にアメリカで生まれた膝から下が釣鐘状に広がったデザインのジーンズ。米国海軍の水兵たちのセーラーパンツをモチーフにしているといわれています。従来のワークウェアとしてのジーンズと一線を画す目新しいデザインは折からのヒッピームーブメントとともに世界的に大流行し、日本でも多くの若者がはき、フロントがボタンのものやサイドや裾にチロリアンテープをあしらったデザインも一世を風靡しました。



## カセットウォークマン

ソニーから世界初のポータブルステレオカセットプレーヤー「TPS-L2」が発売されたのが昭和54年(1979)。録音機能もスピーカーもないカセットプレーヤーの登場は衝撃的でした。しかも、2人で同時に聴けるようにイヤホンジャック2つ、さらに曲の途中で会話をするための消音ボタンも装備していました。その反面、一緒に音楽を聴くガールフレンドがいない男子にとっては、切ないオーバースペックでもありました。



## ブラウン管テレビ

昭和28年(1953)に国産第一号の白黒テレビが発売され、同年2月からNHKのテレビ本放送が始まりました。その後、カラー放送や衛星放送へと発展。21世紀に地上デジタル放送がスタートし、液晶やプラズマに取って代わるまで約半世紀にわたってテレビはブラウン管が主流でした。初期のブラウン管テレビは電源スイッチを入れてもなかなか画像が映らずやきもきしたり、チャンネル争いの果てに回転式のダイヤルが外れ、ペンチで回すこともありました。



## テレビジョン

音声多重放送やBS衛星放送、ハイビジョンなどテレビ放送もめまぐるしく進化をつけてきました。平成23年(2011)7月には地上波アナログからデジタル放送へと移行、多くの家庭がテレビを買い替えました。そして、平成30年(2018)には4K、8K衛星放送がスタート。4Kはフルハイビジョンの4倍、8Kはなんと16倍の画面解像度を誇ります。大画面でも驚くほど高画質な4K・8K放送が楽しめるようになりました。



2019

2010

2000

1990

1980

平成

昭和

'07公開 『眉山』

'07公開 『バッテリー』

'10公開 『君が踊る、夏』

'04公開 『世界の中心で、愛をさけぶ』

'98公開 『がんばっていきまっしょい』

'92公開 『青春デンデケデケデケ』

'82公開 『転校生』  
'84公開 『瀬戸内少年野球団』

## 携帯電話

昭和45年(1970)の大阪万博では電気通信館で携帯型無線電話機とテレビ電話が展示・実演されました。昭和60年(1985)にはショルダーバッグのような肩掛け式無線電話が発売されますが、重さは3kgもありました。昭和62年(1987)ようやく現在のような携帯電話が登場します。平成に入るとメールやカメラ機能が加わり、平成20年(2008)頃からスマートフォンが台頭。本格的なIT社会を迎え、スマートフォンが主役となりました。



## ポケットベル

電波によって小型受信機に合図を送るポケットベルのサービスは昭和43年(1968)に電電公社(現NTT)によってスタートしました。当初は音だけのサービスで合図を受信したら公衆電話から連絡する使われ方でしたが、後に数字が送れるようになり「0906/遅れる」や「0833/おやすみ」「114106/愛してる」などの語呂合わせが女子高生の間で大流行しました。そのサービスも2019年9月末をもってすべて終了し、50年の歴史に幕を閉じました。



## エレキギター

エレキギターは米国で1949年に基本形となるソリッドタイプが発表されました。日本では昭和40年(1965)の米国のエレキバンドの来日公演を機に一大ブームが到来。国内の楽器メーカーも競ってエレキギターを製造しました。しかし、それらは高価なため、多くの若者たちが雑誌の通信販売などで廉価なものを購入。なかにはコンセントにつなぐと音が出ると思ひ込み、別売りのアンプが必要と知ってショックを受ける若者もいました。



## オート三輪

オート三輪は終戦後の日本で広く普及した三輪型貨物自動車です。通称、ばたこ。まだ道路事情の良くなかった時代、悪路に強く、小回りが利き、しかも安価だったオート三輪は大人気でした。その一方で、曲がる際に斜めに傾いたり、横転することが多く、歩行者も手伝って車両を起こす風景は日常茶飯事でした。昭和30年代(1955～)にはTVCMの効果もあって小型オート三輪が爆発的にヒットし、商店の配達などに広く使われました。



## 菊型ケンコーボール

野球は明治時代にアメリカ人教師によって日本に伝えられ、大正時代には学生や子供たちの間にも普及しました。しかし、当時の硬式野球ボールはとても高価で、子供が扱うには硬すぎて危険でした。そこで大正7年(1918)に考案されたのがゴム製の軟式野球ボールです。このボールによって日本独自の軟式野球が生まれました。昭和21年(1946)には菊型ケンコーボールが初代の統一軟式ボールとなり、その後、ディンプルや縫い目模様に加えられていきます。



## 公衆電話

かつて街角の公衆電話は外出先から連絡をとる大切な手段でした。駅前の電話ボックスには順番待ちの列ができることもありました。昭和60年(1985)には全国最多設置数の90万9570台をマーク。しかし、携帯電話の普及によって平成29年(2017)には16万1375台にまで激減。さらには公衆電話の代名詞ともいえる赤電話が平成7年(1995)には廃止されました。



